

(単元) 小説を読む(三) 『鼻』 芥川龍之介

(本時のねらい)

- ①主人公とその周辺の人物たちの人間心理の複雑さや人間関係の絶妙さについて理解したうえで、苦悩を抱えた人間への励ましを思考することにより、他者理解や自己のよりよい生き方について向き合い、見つめなおすことができる。
- ②教科書本文には描ききれなかった主人公のその後を想像し、主人公に焦点を当てた物語を作成することができる。

(ICT活用方法)

①導入

生徒の興味・関心・意欲の喚起、向上につなげるとともに、既習の学習内容を焦点化し、本時の学習課題へ理解の深化を図るために、各段落における主人公・禪智内供の心境の変化をプレゼンテーションソフトを活用しながら説明する。

②展開

クラス全体に分かりやすく提示し、発表・話し合いの共有を効果的に行うために、書き込み機能をもつ電子黒板を用いて、グループ内の独創性が優れているものや、オリジナル作品以上の結末を鮮やかに表現したものを例として発表させる。電子黒板に投影し発表・共有することにより、思考力や豊かな表現力を培い、多角的な視点に気づきを得るきっかけとなることを意図している。

(本時の展開)

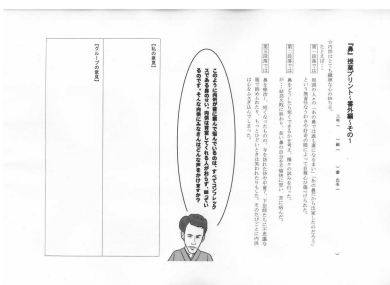
時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標及び活動内容について知る。 ・『鼻』のあらすじを振り返り、主人公の設定や課題、心理背景について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標及び活動内容について説明する。 ・プレゼンテーションソフトで物語のあらすじを示し、各段落における主人公の課題や心理背景を想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画・アニメーションを含むプレゼンテーションソフトを用いて各段落のあらすじを復習する。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・「困っている僧にどのような励ましをするか」をワークシートに沿ってグループで記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「困っている僧にどのような励ましをするか」をワークシートにグループで記入させる。 ・生徒数名を指名し、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板にワークシートを投影する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・前時でグループで創作した『続編・鼻』を電子黒板で示しながら、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで創作した『続編・鼻』を電子黒板で示しながら、発表させる。 ・どのような点が評価できるか教師の意見を伝えながら紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に生徒が作成した物語、ストーリー(ワークシート)を投影する。
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時と単元の学習内容を振り返る。 ・ワークシートにまとめと授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での意見や他のグループの意見を聞いて考えたことを取り入れて、自分の意見を改めてまとめるように指示する。 	

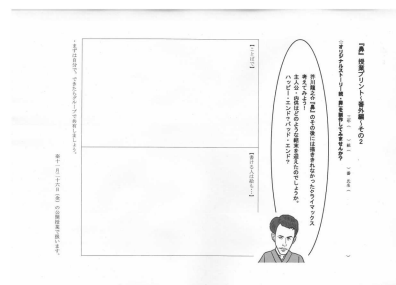
(授業の様子)



全体の様子



使用したワークシート 1



使用したワークシート 2

(生徒の反応と課題, 改善を要する点)

自分たちが創作した作品が紹介されることで、意欲・関心を高めたうえで積極的に、楽しく授業に取り組むことができていた。また主人公・禅智内供は、まさに現代の我々、生徒にとって「最も遠い他人」の一人にすぎないが、その内供の喜劇と悲劇について、内供が抱える葛藤や不安、期待、弱さなども重ね合わせながら作品を創作することができていた。授業の展開時において ICT を活用する中で、教師が一方的に生徒の考えたストーリーの続きを紹介するという形ではなく、生徒自らが他の生徒に発表し語る事ができた。しかしその一方で、クラス全体での共有のみにとどまった点については課題だと感じた。発表・共有時にのみ ICT を活用するのではなく、他の生徒がどのようなストーリー、結末を制作しようとしているのか参考にできるように、制作過程の段階においても有効的に活用していくことが今後の課題であり、模索していきたい。